

めざす子ども像

地域の絆を深めよう～平城の地でいのちを育もう～

取組目標

地域の絆を深めよう ～平城の地でいのちを育もう～**【今年度の取組紹介】**

今年度の新しい試みとして、大根の種まきから収穫、そして、ぬか漬けの完成に至るまでを中学生と共に一貫して行うことに挑戦しました。

初回のことで不安もありましたが、農作物の収穫やぬか漬けのノウハウを待った方々、何より、中学生の「ボランティア部」の全面的な協力のもと、活気に満ちた事業となりました。生徒たちの頼もしい姿に地域の我々もやりがいを感じる事ができました。

また、奈良の名産である柿を使った干し柿づくりの事業では、大根のぬか漬け同様に生徒と力を合わせ取り組みました。生徒の手によって干し柿用に柿を加工し、学校内に干すことにより食材が完成される過程を生徒らが見学できるようにしました。干し柿のような商品の状態でしか見ない食材を一から作りあげることは、今の中学生にとって新鮮な体験だったと思います。

柿のような名産の食材を扱うことは、奈良の魅力や歴史にも関わることができ、生徒たちにとって地域を見つめ直すよい機会となりました。

**【今年度のまとめ】**

平城地域では、「食と農」を中心に、保存食作りに取り組みました。「日本古来の食文化を大切にしたい」の思いから、多くの工程を経て「農から食」へとつながっていく過程を生徒たちに体験してもらえたと思っています。

小学校では、稲作体験を通じ生徒たちが米作りに勤しみました。平城地区では、田んぼを目にする機会が多く、生徒たちにとって身近な食文化を体験できたと思います。

こども園では、さつま芋の栽培、収穫をおこないました。初めて、収穫を体験した園児たちは、実ったさつま芋見て、興奮と喜びの表情を浮かべていました。

【来年度に向けて】

来年度では、平城の地域性や歴史に目を向けた事業をできればと考えています。また、小中学校やこども園に多数のこども達が在籍しており、こども達が地域を愛し、より安心・安全に生活ができるように、地域や学校園と連携し、意義のある事業をしたいと思っています。

めざす子ども像

地域の絆を深めよう ~平城の地でいのちを育もう~

取組目標

今まで取り組んできた食と農に加え、防災、労働、環境、生と性等、人が人として生きていく上で必要なテーマについての学習を深め、豊かな心を育むとともに地域の一員として地域に貢献できる人材の育成に努める

【今年度の取組紹介】**① 恒例のイモ栽培、今年こそその思いを込めて、「鳴門金時」に決定!!**

秋の平城“食と農”ふれあいフェスタ2022は今年も開催を見送り、秋に向けて今年のイモは、王道の「鳴門金時」に!! 苗の生育が遅れ、心配されましたが、4月27日に生徒会役員・ボランティア部の有志メンバー、地域の方々と教員で協力しながら無事に「鳴門金時」300本を植えました。今年は夏休み前にイモの蔓切りを行い、8月の猛暑の影響がかえって水分の多い畑には最適だったのか、9月14日に生徒約30人ほどの手で見事に育った美味しいサツマイモを収穫しました。

**② お正月の風物詩、「干し柿づくり」に挑戦!!**

11月13日(土)、初めて干し柿づくりに挑戦。立派な江戸柿と鶴の子柿の皮をひたすら剥き、消毒を兼ねて熱湯にくぐらせ、編んだ縄や紐に結び、ピロティに干して、収穫まで約2ヶ月、柿の美味しさがギュッと詰まった干し柿の完成に、参加者の歓声!?があがりました。

**③ 収穫した大根は、究極の保存食、「お漬物」に!!**

サツマイモ収穫と同時に大根の種を蒔いて2ヶ月、太く立派に育った大根は、煮てよし、おろしてよし。その大根を、漬け物にしようと、地域の方のレクチャーを聞きながら、一本一本漬け込んでいきました。1月上旬、浅漬けでもしっかりと黄色に漬かった「平城たくあん」の完成です!!

【今年度のまとめ】

- 今年も新型コロナウイルスの影響で「平城“食と農”ふれあいフェスタ2022」の開催は中止となりましたが、新たな取組として、秋の大根栽培からの漬け物づくりや、干し柿づくりなど、例年にはない、“食と農”を考える機会となりました。また、参加した生徒は、地域の方から栽培方法や柿のむき方、縄への吊るし方など、終始和やかな雰囲気の中で挑戦し、完成する日を心待ちにしている様子が伺えました。「地域の中で子どもは育つ」という、皆さんの思いを、来年こそもっと多くの機会をとらえて実現できるように計画していく必要性を感じました。
- 環境整美事業については、今年度も地域のお力を借りながら職員が中心となり、気持ちよく学習に取り組むことができる環境を作り出していただきました。ご協力、ありがとうございました。

【来年度に向けて】

- 来年度は、さらに生徒たちが主体的・意欲的に取り組む視点を取り入れて、今年度の取組を踏襲しながら、地域と学校の双方が無理のない内容で取り組みたいと考えています。
- 生徒一人一人が平城地域の諸活動に対して主体的に取り組み、継続的な取組にしていくとともに、地域の方の協力を得て、環境美化活動への支援の輪をさらに広げていきたいと思ひます。
- 地域の方との懇話会をもつなど、お互いの「顔が見える関係」を大切にしたいと思ひます。

めざす子ども像 **「地域の絆を深めよう」～平城の地で命を育もう****取組目標** 地域・家庭・学校が、栽培・生産・命を育む取組を中心に、協力して学んでいく

【今年度の取組紹介】

◆米作り体験

地域の方から学校の南に隣接したたんぼをお借りして、5年生が田植え・稲刈り体験を行いました。今年で13年目になります。田植えや稲刈りには、地域の方々や農協の方々が多数応援に駆け付けてくださいました。



◆サツマイモ栽培

1年生と6年生が、地域の方にやり方を教わりながらサツマイモを植え、世話をしました。10月には再び1年生と6年生と一緒に収穫をしました。6年生が1年生に教え、手伝う姿を地域の方がサポートしてくださいました。収穫した芋は、放課後子ども教室と共催の焼き芋大会でふるまわれました。



◆パンジー栽培

地域の方が中心になり、地域の校・園を彩るパンジーを種から栽培してくださいました。その植替え作業等に中学校・小学校・こども園がそれぞれ携わりました。

小学校では、園芸委員会が中心となり、植替え作業や日々の水やりを行い、地域と共に栽培を続けています。



【今年度のまとめ】

地域の方々との協働による様々な栽培体験活動で、達成感や成就感を味わい、また、顔を合わす機会や、自然に挨拶を交わし話すことも増え、コミュニケーション力の育成につながっています。

家庭科学習・図工科学習の支援、図書室や中庭の環境整備への支援など、様々な面で地域の方々のお世話になり、教育活動を進める上でもなくてはならない存在でした。

【来年度に向けて】

各学年の児童により効果的な栽培体験学習を年度当初に計画し、地域の協力を得て実行していきたいです。教職員と地域の方々とのつながりをより深めるためにも、顔合わせや意見交換の場を設定し、密接な関係づくりを図っていきたいです。校内で、地域と共に行う活動をまとめ、より計画的・継続的に進める体制づくりを進めています。実践内容の再度検討を図り、小中一貫教育の立場から子どもや教師の交流をより一層深めていきたいです。

めざす子ども像

「地域の絆を深めよう」～平城の地で命を育もう～

取組目標

食と農の活動を通して、地域の絆を深めよう**～園・家庭・地域が連携し、様々な体験を通して豊かな心と健康な体を育む～****【今年度の取組紹介】 栽培活動**

今年も地域の方と一緒に栽培活動をしました。5歳児は、田植えと稲刈りをしました。有志の保護者の方もたくさん手伝いに参加してください、地域の方に田植えの仕方を教わりながら共に楽しみました。泥の感触を味わいながら、「稲の根元を持って、指で土の中へ植える」と教えてもらった植え方を頑張っていた子ども達。その時、田んぼの中でカブトエビを発見！園庭で発泡トレイの“そらぐみ田んぼ”を作って飼育することになりました。その後、地域の方に田んぼの土も少しいただきカブトエビの情報を聞いたり、保護者も巻き込み生態を調べたりしながら飼育をしていました。田植えを通して稲作に触れるだけではなく、田んぼに住む生物についても学ぶことができ、とても良い体験ができました。



地域の方と一緒に子どもたちも花を植え園内を整えています。今年も地域の方に教えてもらいながら、春には5歳児が花壇やプランターに花を植え、秋には4歳児が植えました。そして2学期の終わりには、地域の方と一緒に中学生と小学生が種から育てたパンジーの苗をいただき、こども園のフェンスに飾るプランターに5歳児が植えました。春に地域の方に教わりながら植えた経験や、個人鉢や畑でも栽培活動をしてきたことを思い出し、丁寧に苗を扱っていた子ども達。地域の方からも「すごいね！」「上手に植えてるね」と褒めていただきとても嬉しそうな子ども達でした。

**【今年度のまとめ】**

今年度も感染対策を十分に行い、事前に相談しながら計画し、昨年度よりも地域の方と一緒に活動することができたように思います。

サツマイモの収穫や田植え、稲刈りを通して食への興味関心が高まり、地域の方への感謝の気持ちをもつことができました。今回はカブトエビの飼育活動にも広がり地域の方と子どもたちのつながりを深めることができました。また、今年度は、昨年度から始まったパンジーの栽培にこども園なりに参加させてもらうことができ中学校や小学校とのつながりを感じることができました。他にも地域の方や保護者の方の協力のもと、お話の会、体操教室、防災教室等を行うことができ子どもたちは様々な経験をすることができました。

【来年度に向けて】

新型コロナウイルス感染症が5類になることを受け、今後の活動内容や方法を地域の方と一緒に考えながら進めていきたいと思っています。園児、保護者、地域が互いに心豊かな体験になるように、今後も活動計画や活動後の振り返りを大切にしていきたいです。その際、職員と地域の方がつながりをもてるように引き続き保育後にも時間を確保していきたいと思っています。